

氏名	深澤 郁雄
学位の種類	博士（医学）
学位記番号	乙第274号
学位授与年月日	平成21年7月1日
審査委員	主査 教授 並河 徹 副査 教授 北垣 一 副査 教授 関根 浄治

### 論文審査の結果の要旨

膝半月板は膝関節の機能を保つ上で重要な役割を果たしている。円板状半月は半月板が脛骨プラトー全体を覆う形態異常であり、これが断裂することにより、跛行や膝関節伸展障害、引っかかりなど種々の臨床症状を引き起こす。円板状半月板の成因については諸説あるが、いまだに解明されていないことから、申請者は、その成因についての手がかりを得ることを目的に、胎児および成人での膝半月板の形態学的検討を行った。本学発生生物学講座にて保管されているヒト胎児標本41例と本学医学部解剖学実習遺体14例の膝関節脛骨面をデジタルカメラにて撮影し、脛骨プラトーと外側および内側半月板の面積、真円度を画像処理ソフトで測定した。胎児での検討では標本中最も早期の胎齢14週のものですでに成人と同様の半月板形成がなされており、胎齢との間に半月板/脛骨プラトー面積比、半月板の真円度とも相関はみられなかった。このことは、胎齢14週前後に円板状の半月板が形成され、それが徐々にC型のものに成熟していくという発生過程が否定的であることを示唆した。胎児と成人の比較では、半月板/脛骨プラトー面積比、真円度ともに有意な相違は見られなかった。本研究は胎児、成人での半月板の形態を定量的に検討した初めてのものであり、今後の臨床研究の基盤として重要な知見を提供する成果である。